

上野の杜

東京オリンピック 2020  
日本の顔を世界に

# 芸術文化 特区構想

## 21世紀の「文化立国日本」を世界に発信する

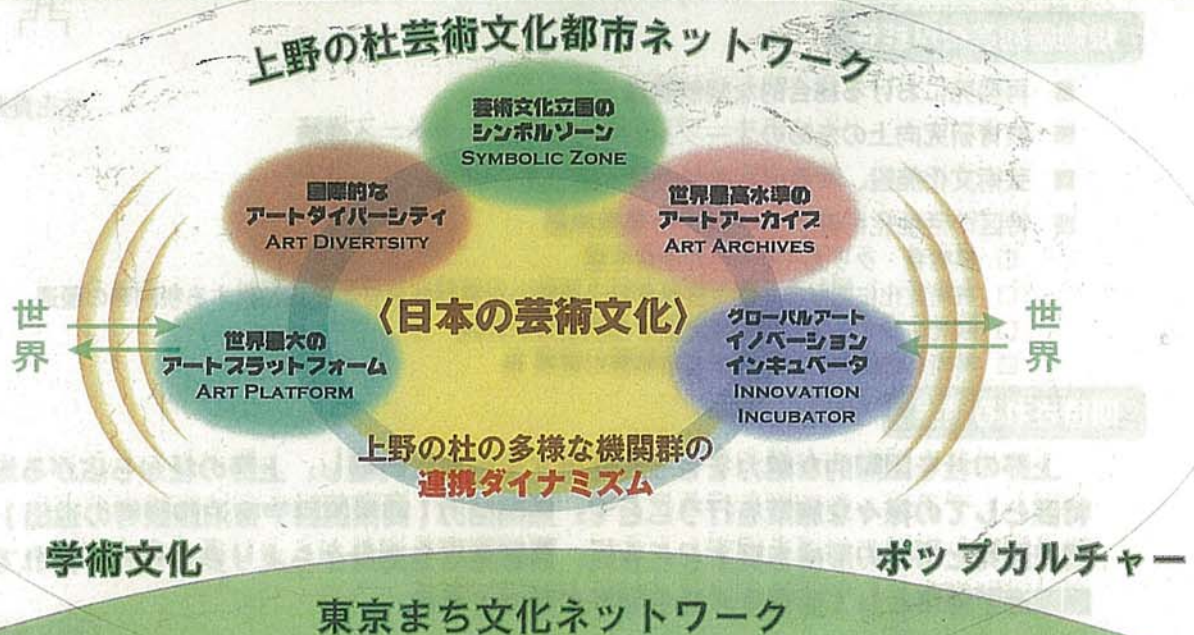
世界最高水準の文化拠点形成

芸術文化資産の国際的活用

3000万人を迎える国際遊学都市

上野・谷根千・本郷・秋葉原・神保町の基点

日本有数の文化資源の宝庫、「上野の杜」の潜在能力を強化、  
多種多様な芸術文化機関の連携、豊かな自然環境の醸成と  
価値ある芸術文化資産をひろく発信する革新的基盤整備により  
国際遊学都市として大きな経済的波及効果につなげる



《上野の杜のポテンシャル》

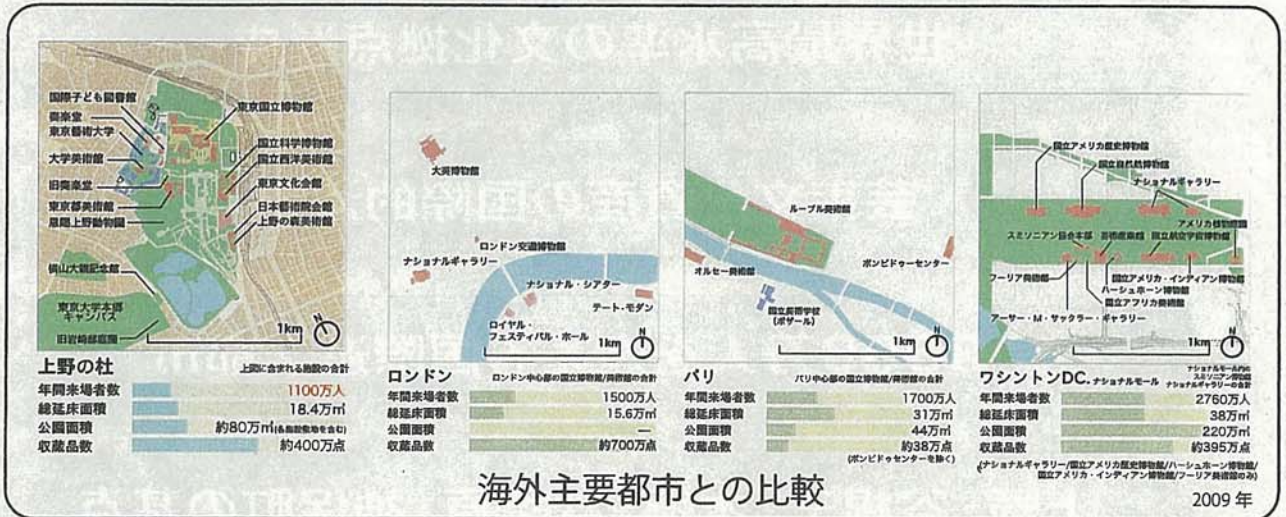
・日本屈指の文化施設が集結

東京藝術大学(大学美術館・演奏堂、国際芸術図書館の新設)、  
東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、恩賜上野動物園、東京都美術館、  
東京文化会館、国際子ども図書館、上野の森美術館など

・新東京国際空港からの玄関口

・人々から親しまれる自然豊かな景観とその歴史(不忍池、桜並木など)

・災害避難時の重要拠点の強化



具体的施策

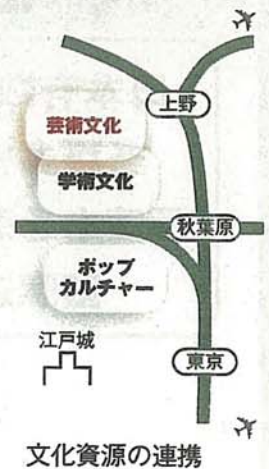
- 国、都、区、民間の垣根を越えた各施設の連携
- 周辺地域とのつながりと文化施設の利活用による芸術資産価値の向上
- 中核となる施設“芸術における知の拠点[国際芸術図書館]”の新設
- 文化資源活用のスペシャリストの養成(アーキビスト、アートマネジメント)
- 公園環境(アクセス・周遊ルート・景観・地下開発等)の整備

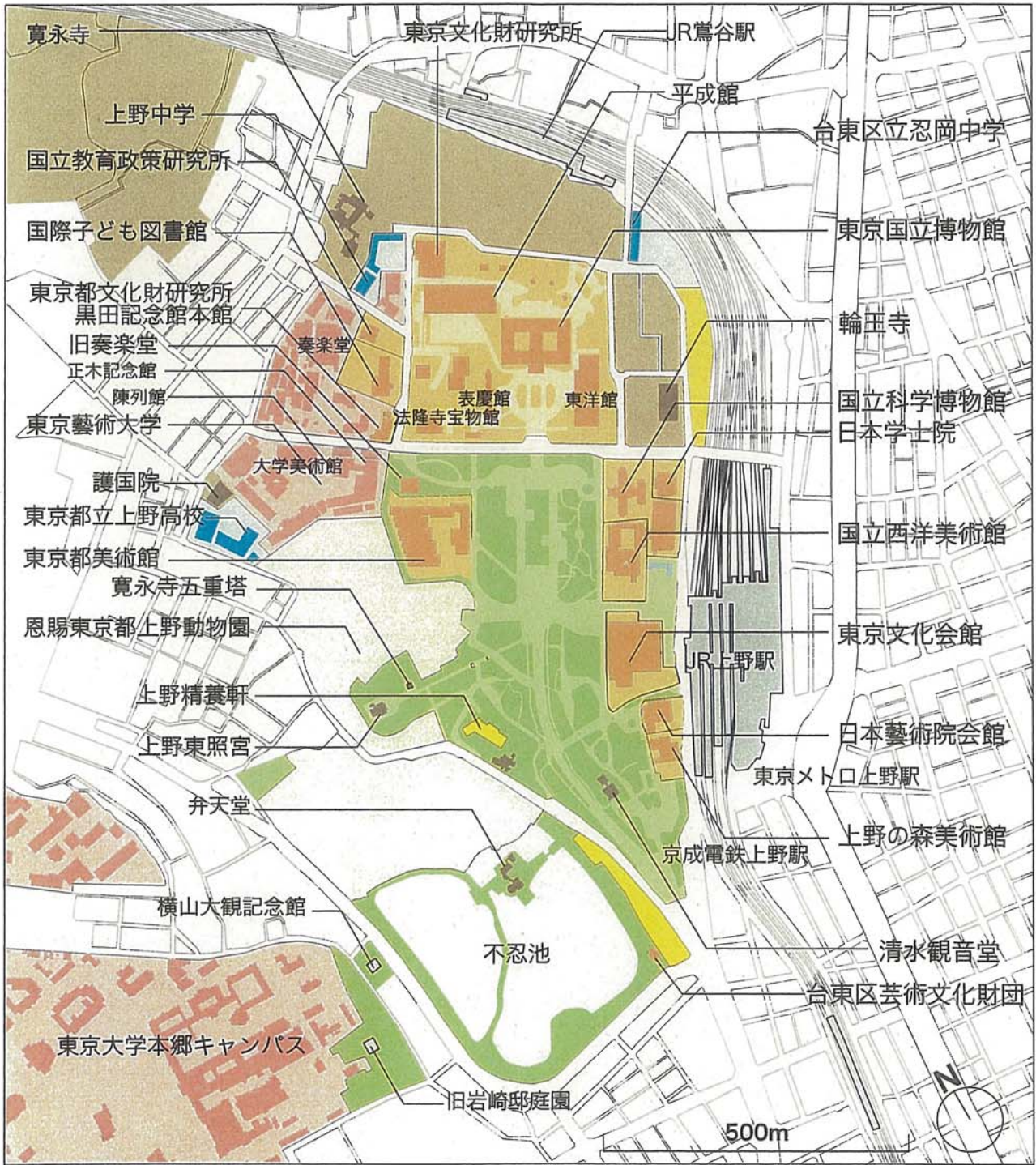
規制緩和等の可能性

- 再開発における総合的な規制緩和
- 教育研究向上のためのオープンな芸術資産データベース構築
- 芸術文化施設、教育研究施設の弾力的活動の促進
- 特区の活性化に資する税制等の優遇措置
  - 研究者・クリエイターへの活動支援
  - 芸術文化に関わる施設や団体が行う活動への寄付ならびに投資に対する税制等の優遇
  - 観光に資する宿泊施設等に対する税制等の特例
  - 美術品の商取引等に対する税制等の優遇 他

期待される効果

上野の杜を国際的な魅力をもった芸術文化拠点に再編し、上野の杜から広がる地域に特区としての様々な施策を行うことで、民間活力(商業施設や宿泊施設等の進出)による観光開発と市場の形成を促すとともに、首都東京を海外からより多くの人々が訪れて賑わう国際遊学都市として活性化させる効果が期待できる。





- 凡例：
- 芸術文化施設(博物館/美術館/劇場/コンサートホール等)
  - 教育施設
  - 寺社・墓地等等
  - 民間施設 他
  - 公園・緑地
  - 動物園
  - 鉄道施設
  - 大学等

## 上野の杜に立地する施設群 2012

## 上野の杜の発展の可能性

| 1 |

### 上野の杜のポテンシャル

明治時代以降、上野の杜一帯の土地のほとんどが国や東京都などの公的な機関の管理となり、そのため昭和の高度経済成長期においても、いわゆる商業戦略的な都市開発の波に呑み込まれず、緑やオープンスペースの保全とともに多様な芸術文化系施設群がゆるやかに集積し、その数は20以上、延べ床面積の合計は18.4万㎡に達し、有料来場者数は年間1,100万人を越え、わが国における最大規模の芸術文化ゾーンを形成している。

それらの施設は上野恩賜公園を含む約80haの上野の杜一帯に分布し、都心のグリーンネットワークを形

成する重要な場所となっている。

明治33年の農商務省植物台帳によれば、上野台地一帯は現在の多摩丘陵林に見られるような豊かな植物相があったとされている。しかし、現在の植物相は場所によっては衰退の傾向にあるともいわれている。都市のグリーンインフラの骨格を担う上野の杜の自然の育生強化が望まれる。

| 2 |

### 杜の緑の育成と

#### 各機関の施設拡充の両立の試案

国や都などによって設置された博物館、美術館、劇場、大学等の機関は、当初芸術文化の振興に向けた基礎を築く役割をもって開館したが、数10年~150年の歴史を積み重ね、その活動内容は拡大し、現在では国際的な視野の中でわが国の芸術文化の発信・交流および研究・創作の世界戦略的な拠点としての活動レベルに達しつつある。そうした発展の一方で、各機関の施設的环境容量、設備性能などが追いついていない状況になってきていると考えられ、今後ますます施設拡充が必要になっていくだろう。一般に施設整備を行うと、その分オープンスペースが減少する。上野の杜のオープンスペースや緑は極めて重要であり、減少させることは考えにくい。むしろ育成・拡充を推進していかなければならない。

そこで新たな施設拡充は既存設備の高度な再整備と同時に、ひとつの方向として地下利用の可能性も考えられるだろう。藝大で近年新設した大学美術館は地下四層、地上三層であり、地上部よりも地下部のボリュームが大きい。

必要な緑やオープンスペースを維持するため、現行法は建築面積(地上1m以上の建物部分の面積)や建物の高さを抑制しているが、一方で容積率(建物の延床面積)は十分な余剰がある(各施設の敷地面積の3倍の床面積まで可)。これは地上に建てず地下に建てることの可能性を示しているとも言える。

上野の杜が台地であるという地形から、地下空間は実は台地の下の街区から見ると地上であり、インフラ整備やアクセス整備も合理的に計画できる可能性が高い。たとえば施設の研究者や職員あるいは物資の敏速な移動のために、地下にコンパクトな新交通システム(たとえばニーズに応じて自動制御されるスマートリンクなど)を敷設し、効率のよい施設間連絡網をつくるのもひ



凡例(容積率): ■ 300%(準防火地域) ■ 300% ■ 400% ■ 500% ■ 600% ■ 700%  
 ■ 東京藝術大学敷地

上野の杜ゾーンの建ぺい率		都市計画公園+第二種風致地区	
<b>第二種風致地区</b> 建築物その他の工作物の新築、改築、増築又は移転については東京都建設局の許可が必要。 建ぺい率 : 40%以下 最高の高さ : 15m以下		建ぺい率 : 2%以下 ただし、制令で定める特別の場合においてはこれをこえることができる。	
<b>特別緑地保全地区</b> 建築物及び工作物の新增改築などに現状凍結的な制限を課す。 容積率:300% (準防火地域)		<b>特例施設</b>	<b>建ぺい率</b>
		・休養施設	12%
		・運動施設	12%
		・教養施設 等	12%
		上記に加え	22%
		・文化財等及び	22%
		・景観重要建造物	22%
		・壁を有しない休憩所	22%
		・屋根付き広場 等	22%
		上記に加え	24%
		・仮設公園施設	24%
		(上限3ヶ月)	24%

容積率・建ぺい率に関する法則 2012 ※台東区都市計画図より

とつの考え方であろう。

また、もしJR上野駅公園口の前面道路がアンダーパス化されると、その新交通システムに連絡することも考えられるだろう。さらに仮に上野の杜を南北に分断している道路(補92号)も、藝大の両学部の校門付近から東京国立博物館の正門付近までアンダーパス化されれば、地上には豊かなオープンスペースが広がり、上野の杜を訪れる人々の快適な動線が得られるだろう。

| 3 |

### 「境界」のデザインが施設間連携を支援し、社会に開かれた場と豊かな景観を醸成する

上野の杜の施設群は長い歴史の積み重ねによって、おのおの極めて質の高い個性的な空間性を獲得し、自立性の高い場所を創出してきた。上野の杜はそうした場所と場所の連鎖によって魅力あふれる個性的で多様な空間が生まれるポテンシャルをもっている。しかし施設群は相互に隣接あるいは上野公園を介して接する環境にあるが、接する部分、すなわち境界の多くは塀などによって分断されている。

もしこれらの境界が塀やフェンスではなく環境・空間的創意によって適切に制御され、施設群が有機的連続性をもち、ゆるやかに融合することができれば、機関相互の協同研究・交流が活性化されるだけでなく、景観的にも劇的で多様性に富むダイナミックな構造が醸成されるだろう。

藝大では現在進めているパイロットプロジェクトにおいて、その試みを取り入れて計画しているところである。

ここで重要なことは、塀やフェンスに代わるセキュリティのあり方やシステムの構築、そして融合空間の維持管理体制の確立であろう。

そのために施設相互のみならず、すべての施設群が連携協力し、防犯および防災を含めた実行力のある体制づくりが必要と考えられる。

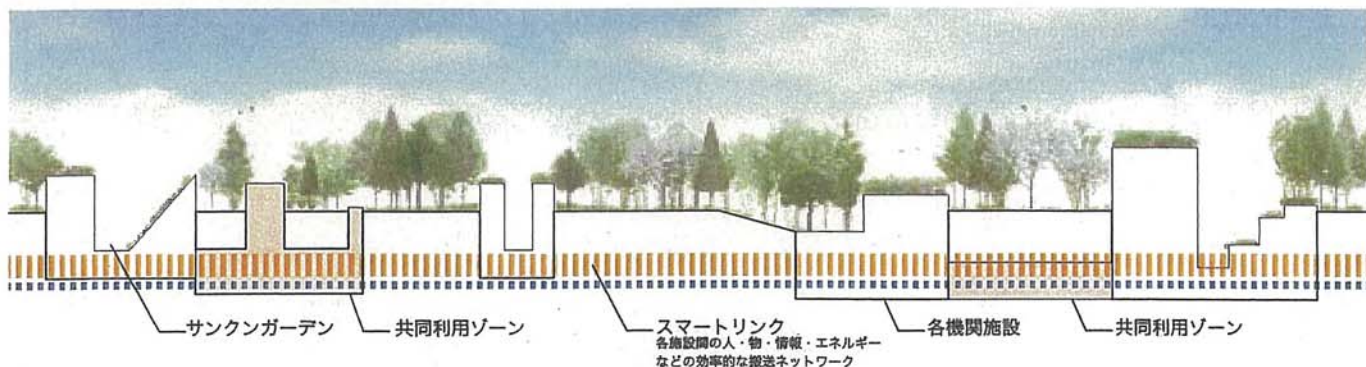
境界のデザインを考える際、必ずしも全体を統合するようなマスタープランを掲げるのではなく、むしろ部分部分の歴史の積み重ねやその場の特色から析出される肌理の細かい繊細で、多様な個性に富んだ沢山の糸によって臨機応変に編み上げられていくことが上野の杜に相応しく、またリアリティがあると言えるかもしれない。

ただ、境界のデザインの可能性に広がりをもたせるガイドラインや、誘導するインセンティブが必要と思われる。たとえば境界の両側にまたがる建築は一定範囲で建築面積に参入されないなど、上野の杜に相応しい独自のビジョンを描き、思い切った考え方を編みだしていくべきであろう。

地下空間の活用についても地盤面の算定、容積算定、採光斜線など様々な規定についての特別措置など総合的な配慮が必要であろう。今後、上野の杜の将来像を描きながら、現行の都市計画・建築計画に関する法規制を吟味し、都市計画法における地区計画あるいは特区などの施策も視野に、議論を重ねていくことが望まれる。

#### 地下空間有効利用の例

地下空間のアメニティを確保するために通風、採光、眺めを得られる適切なサンクンガーデンを設ける。サンクンガーデンは緑とオープンスペースによって快適な潤いのある環境となる。また既存・新設ともに屋上を緑化し、上野の杜全体が豊かな緑に覆われる。



## 上野の杜芸術文化都市

| 1 |

### 上野の杜の品格/古典から現代まで多様な建築の集積/ 長い時間軸を感じる環境

上野の杜には古典建築から現代建築まで20以上の歴史的・芸術的に重要な建築が見られる。旧寛永寺五重塔(国指定重要文化財)、近代建築黎明期の建築家渡辺仁設計の東京国立博物館本館(同)、片山東熊設計の表慶館(同)、また前川国男設計の東京文化会館、東京都美術館、吉田五十八設計の日本芸術院会館、安藤忠雄設計の国際子ども図書館増築をはじめ多数の名作をみることができる。

さらに、ニューヨーク近代美術館の増築設計を手がけたことで知られる谷口吉生設計の法隆寺宝物館、ル・コルビュジェ設計の国立西洋美術館(国指定重要文化財)など、世界的な建築家の貴重な作品が一つの公園一帯にこれほど集積している例は世界的にも珍しい。

そうした建築を含めた施設群の配置全体を俯瞰すると、比較的变化に富み日本的な細やかなスケール感を持っていることがわかる。また、縄文時代や古墳時代、江戸時代などの史跡や遺構も垣間見られ、実に長い時間軸を感じることのできる環境がある。



上野の杜に立地する施設群2012

| 2 |

### 上野の杜が「世界の芸術文化の杜」になる鍵は「連携」

上野の杜に立地する芸術文化施設群が、今後さらにわが国の芸術文化の振興と発展に貢献していくためには、おのおのの施設が様々な形で連携していくことが望まれる。

右ページの諸外国の芸術文化施設群の事例を見ると、上野の杜は規模や環境において遜色のないことがわかる。もし施設群の連携によって互いに連関する空間性を獲得し、連鎖し、融合していくことができれば、世界に誇る芸術文化の杜が出現するだろう。

さらに上野の杜の近隣には東京大学や旧岩崎邸庭園、横山大観記念館、また寺院街の谷中のまちがあり、こうした周辺地域との連携を視野に入ると、芸術と学術を軸にもつ新しい都市像が浮かびあがってくるだろう。

| 3 |

### 上野の杜芸術文化都市

世界的な傾向として、芸術文化は観光資源としてもますますその価値が高まっている。

上野の杜はJR上野駅という基幹駅に隣接し、成田国際空港と上野を結ぶ京成電鉄の京成上野駅は公園内に位置し、海外からの東京の玄関に当たる。

上野の杜の芸術文化施設群が連携してわが国の芸術文化の振興に貢献し、グローバルな戦略拠点としての役割を果たしていくことができれば、それによって派生する経済効果は莫大なものとなるだろう。

上野の杜の将来を考えたときに、施設群の連携による、大規模な芸術文化事業の実施、新しい芸術分野の創生と育成、世界最高水準の施設拡充などを想定すると、コンソーシアムのような一歩踏み込んだ構想も視野に入れて持続的かつ戦略的な上野の杜の経営を考えていくことも必要になるであろう。

これまでの考察と諸々の状況を勘案すると、上野の杜の施設群の思い切った活動や施設づくりを可能にする「特区」的な施策についての検討も必要になっていくかもしれない。芸術文化活動の推進・支援を目的として国が指定した芸術文化特区については富山県利賀村の「舞台芸術特区 TOGA」の1例があるのみで、また海外には今のところ例がない。

今後、そうした「特区」などを視野に入れて包括的に検討していくことが望まれる。